

問1 日明貿易などで繁栄した自治都市「堺」は、現在の何という都道府県に位置している？

1. 京都府 2. 大阪府 3. 福岡県 4. 神奈川県

問2 東山文化を代表する建築物で、足利義政が京都に建てたものは何？

1. 慈照寺銀閣 2. 大徳寺方丈 3. 鹿苑寺金閣 4. 龍安寺石庭

問3 室町時代に、幕府が許可を与えた商船が中国の明と行った貿易を何という？

1. 朱印船貿易 2. 遣唐使 3. 北前船貿易 4. 勘合貿易

問4 1428年に近江国で起こり、馬借らが蜂起した民衆とともに幕府へ徳政を求めた一揆を何という？

1. 山城国一揆 2. 加賀の一向一揆 3. 正長の土一揆 4. 播磨の土一揆

問5 室町時代に質屋を営み、酒屋とともに金融業として富を蓄えたのは何？

1. 土倉 2. 寄合 3. 惣 4. 座

問6 祇園祭が室町時代に一時中断する原因となった、京都を主戦場とした大規模な内乱を何という？

1. 享徳の乱 2. 応仁の乱 3. 観応の擾乱 4. 文明の乱

問7 守護大名を倒し、約100年間にわたって民衆による自治が行われた現在の石川県にあたる地域はどこか？

1. 大和国 2. 山城国 3. 加賀国 4. 伊賀国

問8 室町時代、農民たちが「寄合」を通じて村の運営を独自に行うようになった村の組織を何というか？

1. 検地 2. 年貢 3. 寄合 4. 惣村

問9 室町時代、琵琶湖の水運と連携し、大津や坂本などの港から京都へ物資を陸上輸送していた運送業者を何という？

1. 問丸 2. 馬借 3. 車借 4. 座

問10 鎌倉幕府の滅亡後、後醍醐天皇が始めた天皇中心の政治を何というか？

1. 建武の新政 2. 寛政の改革 3. 天保の改革 4. 明治維新

問11 室町時代、大規模な内乱の最中に建立され、その後の日本文化の礎となった建物を何という？

1. 元寇 2. 観応の擾乱 3. 応仁の乱 4. 明応の政変

問12 室町時代、京都に慈照寺銀閣を建てて、簡素で気品ある文化の発展を支えた将軍は誰？

1. 足利尊氏 2. 足利義教 3. 足利義満 4. 足利義隆

問13 応仁の乱の後、実力のある者が上の立場の者を倒して勢力を広げた、戦国時代の風潮を何という？

1. 下剋上 2. 一揆 3. 一門 4. 落胤

問14 室町時代、堺や博多などが大きく発展するきっかけとなった、明との間で行われた貿易を何という？

1. 南蛮貿易 2. 日明貿易 3. 朱印船貿易 4. 日宋貿易

問15 室町時代中期、将軍の継承問題などをめぐって起こり、下剋上の風潮が広まるきっかけとなった出来事は？

1. 享徳の乱 2. 観応の擾乱 3. 応仁の乱 4. 文明の乱

問16 室町幕府が、明との貿易船を正式なものと証明するために使用した札を何という？

1. 公驗 2. 印章 3. 符節 4. 勘合

答え合わせ・解説

問1	答え 2 大阪府	堺は大阪湾に面した港町であり、その立地の良さを活かして海外との交易で巨大な富を蓄積しました。特に日明貿易が盛んになると、堺の商人たちはこの利益を独占し、政治的にも強大な力を持ちました。
問2	答え 1 慈照寺銀閣	慈照寺銀閣は、北山文化の華やかな金閣とは対照的に、簡素で落ち着いた美しさが特徴です。この建物には、畳や床の間、障子などを備えた書院造という新しい部屋の様式が取り入れられました。
問3	答え 4 勘合貿易	足利義満が明の皇帝と交渉し、正式な貿易が始まりました。日本側は証明書である「勘合」を持つ船のみが貿易を許可され、日本からは刀剣や工芸品が、明からは生糸や「永楽通宝」などの銅銭が輸入されました。
問4	答え 3 正長の土一揆	この一揆は、近江国の馬借が先導したとされ、土倉や酒屋を襲って借金の証文を破り捨てました。彼らは「徳政」を要求し、それまでの借金を帳消しにすることを幕府や領主に認めさせようとしていました。
問5	答え 1 土倉	「土倉（どそう）」は、もともと商品を保管する倉庫を指していましたが、預かった商品を担保にして金を貸す質屋のような役割を持つようになりました。酒屋とともに幕府から営業の認可を得る代わりに税を納めることで、幕府の重要な財源となりました。
問6	答え 2 応仁の乱	約11年間にわたって京都の市街地が戦場となり、寺院や屋敷が焼き払われました。京都の街は壊滅的な被害を受けましたが、一方で幕府の権威は地に落ち、全国で下剋上の風潮が強まることとなりました。
問7	答え 3 加賀国	加賀国では、一向一揆が勢力を拡大し、ついに守護大名を追放することに成功しました。その後、約100年もの長い間、武士や農民たちが話し合いを通じて村を運営する自治が実現しました。これは、当時の日本において珍しい「百姓の持ちたる国」と呼ばれる現象でした。
問8	答え 4 惣村	惣村は、村人が共同で地主や守護大名に対抗するための組織でした。村人たちは「寄合」を開いて村のルールを決めたり、用水路の管理を行ったりしました。また、守護大名が過度な年貢を取りに来たときには、団結して抵抗する権利も持っていました。これにより、中世の村は高い自主性を持つようになりました。
問9	答え 2 馬借	馬借（ばしゃく）は、馬の背に荷物を載せて運送を行う業者です。琵琶湖などの水運と組み合わせて、港から京都へ物資を運ぶ重要な役割を果たしました。当時の物流の主役の一つであり、運送を通じて経済的に大きな影響力を持つようになりました。
問10	答え 1 建武の新政	後醍醐天皇は、天皇中心の政治を行うために、公家を重用し武士の意見を十分に聞かれない政策を行いました。京都を中心としたこの政治体制は、武士の土地の権利を不安定にしたため、多くの武士の不満を買う結果となりました。このため、わずか2年半ほどで崩壊しました。
問11	答え 3 応仁の乱	1467年に始まったこの戦いは、全国の守護大名が東軍・西軍に分かれて戦ったため、日本全土に広がりしました。これにより、室町幕府の権威は地に落ち、京都の街は焼け野原となりました。
問12	答え 4 足利義政	足利義政は京都の東山に山荘を構え、茶の湯や華道、連歌などの文化的な活動を奨励しました。義政自身が理想とした「わび・さび」という美的感覚が、その後の建築や庭園のデザインに反映されました。
問13	答え 1 下剋上	「下剋上」とは、下位の者が上位の者を実力で倒して支配権を奪う、戦国時代特有の世の中の秩序を指します。守護大名が家臣や国人に実権を奪われる事態が各地で相次ぎました。
問14	答え 2 日明貿易	日明貿易は、当時の日本にとって中国の文物を輸入する重要な手段でした。明側からは銅銭（永楽通宝など）や絹織物、書物などが輸入され、日本からは金、銀、工芸品などが輸出されました。この利益によって堺や博多の都市が繁栄し、経済的に自立する大きな原動力となりました。
問15	答え 3 応仁の乱	8代将軍足利義政の後継者争いに、有力な大名家である細川氏と山名氏の対立が絡み、京都を中心に約11年間も続いた大乱です。京都は灰燼に帰し、幕府の権威は地に落ちました。
問16	答え 4 勘合	「勘合」は、日本と明がそれぞれ発行する二枚一組の符札です。これを照らし合わせることで貿易船の身分を証明しました。この札を持つ船だけが貿易を認められたため、この貿易を「勘合貿易」と呼びます。